

●JICA国内研修ゲンバ訪問記 VOL.12 町並み保全の手法と運営の京都&奈良編

OJAMA-SHIMASU

たけだみこ

世界的には都市は共有財産という考えが主流で、都市計画は行政が半強制的に決めてしまふことが多く、日本みたいな住民参加型は珍しいんですけど、三つというケースは今後増えると思われるので

あ、あと各国の建築専門家である彼らに日本の木造建築物の「価値」を正しく理解してもらおうという目的もあるんですよ

実は京都の世界遺産登録の時には、外国の審査員が来て、ここの町並みがいいよと評価してねー

電車に乗って、奈良県今井町に向かった。

1時半過ぎ、なんとか無事に全員が再集合し、

この研修は、日が浅いんですけど、みんなすごく仲がいいですよ

8月X日午前10時50分、京都市景観まちづくりセンターに到着。

おじさま、講義が始まるので、席にどうぞー

このセンターは歴史ある京都の町並みを守り育てていくために

このセンターは歴史ある京都の町並みを守り育てていくために

住民と行政と企業のつなぎ役として、さまざまな取り組みを行っているのだそう。

質問タイムが始まると、みなさんに質問があり、

いろいろな出る出る。設立9年で、どんな成果か？という質問が、9年前というのが、京都府の町に、しては遅いような気がしますが？

3時ごろ、今井町まち交流センター「華厳」に到着。

県文化財に指定された歴史の建築物でもあるこの建物の2階で、早速講義。

今井町ができた歴史的背景や、1955年に「再発見」されて以来、97年に重要伝統的建造物群保存地区(伝建地区)に指定されるまでの経緯、その後の取り組みなどを聞いた。

住民として、町が観光地化して落ちついて生活できなくなってきたイヤヤヤ、この伝統的な町並みを守りたいという複雑な気持ち、たんとすすす

住民の意見をまとめて、今の形になるまでには30年以上の時間が必要だったという話がとても印象的だった。

町並み保全には市でも20年程前から一部のチームが取り組んでいますが、パールの頃までは土地の有効利用が優先で、うまくいかなかったんです。

しかし近年は、保全にかける後継者も育ち、少しずつ成果が出てきています。

建築計画、問題がある時、建築主の説得は、市の仕事？それこそセンター？

センターにどんな援助があるのか？

実際の説得は市がやります。センターにはそういう権限はなく、住民の反対意見をもとめてそれを市に伝えるのが仕事です。

市からは調査費などの助成金があり、センターの職員も半分は市の人間です。

このセンターの存在とその役割に、研修員たちはとても興味がある様子。

この後、1階にある資料館を見学してから、

町全体の模型がすごいです。町並みの歴史を、この模型で、大事に大事に作られています。

要所所で解説をしてもらって、

美しい格子戸をバックに、モデルポーズで写真を撮ったり

午後5時半、こうしてこの日の研修は終了。

今日は、住民と行政の協力があれば町並みを守れるという例を、実際に見せてくれたので、市民の協力が大切なんですね。

その後、京町屋の資料が展示してある部屋に移動。

町屋の精巧な模型や、改修事例を見ながら、なおも質問は続いた。

高層ビルを建てたが、古い町屋を壊すのは、高層ビルを建てた方がええ、という時代が、あったんですよ。

私たちが山崎先生とこはんを食へながら、いろいろお話を伺った。

今こそ京都も「町並み保全」いう盛り上がり、ますます、ちよと前は、京都の発展のために、古い町屋なんか壊して、高層ビルを建てた方がええ、という時代があったんですよ。

伝建地区に指定された中に入ると、周囲の風景が一変。

ここで普通の人が生活している感じが、ここには、時代劇のセットみたいだ。

見学で立ち寄った店で買った、

明日も暑そうだけど、がんばってください！

研修員たちはそのまま、今井町に宿泊し、明日は、より詳細に見学をするぞう。

町家の改修のポイントは何ですか？

職人さんは足りていないんですか？

町家に住みたい若い人と、大家さんと仲介するNPO団体があるって、

往希知度の延長みたいな「ヨシ野」という職人学校があるって、若手の育成が、

改修は伝統的な様式は守りつつ、耐震性を古めたり、床暖房を入れたりして、住む人の安全と快適さも、

町家の改修のポイントは何ですか？

職人さんは足りていないんですか？

町家に住みたい若い人と、大家さんと仲介するNPO団体があるって、

往希知度の延長みたいな「ヨシ野」という職人学校があるって、若手の育成が、

改修は伝統的な様式は守りつつ、耐震性を古めたり、床暖房を入れたりして、住む人の安全と快適さも、

研修員ふるさとのキッチンコーナー

① 鍋にトウモロコシの粉、パスタ、バターを入れて、火にかき、牛乳を少し、トウモロコシの粉を少し、フタをして、弱火で5分煮ます。

② 卵を切ったタマネギと、牛ひき肉を油で炒めて、塩コショウ、ウコンを味つけ、耐熱皿に広げる。

③ 卵、オリーブオイル、塩コショウ、ウコンを混ぜ、鶏がら油をのせて、①をのせ、

④ ①をふわりかき混ぜ、③をのせ、

⑤ グラニュー糖をパラパラと振り、20度のオーブンで30分焼く。

たけだみこ 漫画家。4コマ、シヨート、料理漫画を中心に活動中。著書に「セイシユンの食卓」「異国のメシ」等。キッチンングタンタン「キッチン」の元。

http://maipo.com/keiji/

今回紹介する研修は「町並み保全の手法と運営」。近代化が進む途上で歴史的な町並みを保全し、継承していくための理念や計画・運営手法などを学ぶものだ。歴史的な町並みや都市景観に見られる文化的伝統を継承していくことの意味は、グローバル化が加速する現代においてかえって世界的に見直されている。日本では1970年代以降、各地の都市が独自に町並み保全に着手し、文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区制度から地方自治体の条例による町並み保全まで、幅広い制度と手法で町並み保全に取り組んできた実績がある。研修では、そうした日本の知見を生かして、近代化と対立・矛盾することなく生きた町として歴史的町並みを保存する手法を、住民参加、世界遺産、経済効果、防災などさまざまな視点から伝えている。

この研修を企画・運営・指導しているのは立命館大学の山崎正史教授。研修員は、自国で都市計画や文化遺産保全などにかかわる行政官、建築家、研究者たちだ。今年にはチリ、コロンビア(2人)、ペルー、グアテマラ、中国、ソロモン、トルコ、ケニア、タンザニアから計10人が参加した。

私たちが訪れた日、研修員は「京都市景観・まちづくりセンター」で

京都の優れた歴史的景観を形成し都市居住文化をはぐくんできた「京町家」を、住民、企業、行政が協働して保全・再生し、地域を活性化させる取り組みを学んだ後、奈良県橿原市今井町に移動。50年代に伝統的な町家を守る運動が起こり、住民と行政が一体となって歴史的町並みを生かしたまちづくりを進めてきた今井町の経験が紹介された。住民主体の町並み保全を興味深げに聞き入る研修員たち。それぞれの国で、町並みは違っても、「守り伝えたい」という思いは同じなのだろう。